

第106回全国高校野球選手権青森大会は18日、八戸長根と弘前はるか夢の2球場で、準々決勝4試合を行う。8強に進んだ各チームはそれぞれ力のある投手陣を擁し、多くの試合でスコアの投手戦が予想される。好守と共に、打撃で投手をもり立てられるかが勝敗を分けそう。共にセンバツに出場した八学光星―青森山田の一戦に注目が集まる。

八戸長根の第1試合は工大―三沢商。春季大会3位の工大―金洸光希と杉村駿太の両左腕を軸に、伝統の小技を駆使した攻撃で着実に加点を狙う。対する三沢商は左の大屋真士、右の郡山柁希の継投で最少失点に抑えた上で、梶崎悠大ら打線が勝機をつかめるか。

第2試合は東義―弘前東の「弘前対決」。東義は成田玲史と本多茂仁の2枚看板が魅力。走力を生かした攻撃が機能すれば、8強突破も十分ある。弘前東は4番米村琉希が直近2試合で7打数5安打を記録。左腕工藤龍右との投打がかみ合えば初の聖地に近づけそう

## 青森大会 高校野球 準々決勝 きょう 光星―青森山田戦に注目

だ。

弘前はるか夢の第1試合には春季王者の弘学聖愛が登場。打線は爆発中で、春の決勝で青森山田打線を抑えた吹田志道がマウンドで気を吐けば大量失点は考えづらい。青森商は扇の要に座る宮本歩を中心に、8強シードの明の星を破った勢いを見せたい。

決勝カードと言っても過言でない第2試合。3連覇が懸かる八学光星は岡本琉奨、洗平比呂、森田智晴ら好投手が豊富で、砂子田陽士や山本優大がバットで貢献できれば隙は少ない。一方の青森山田はこれまで主戦関浩一郎を温存。打線も2試合連続で10得点超と好調を維持し、万全の態勢で決戦に臨む。

（取材班）

きょうの試合

▽準々決勝

【八戸長根】

工大―三沢商 (10・00)  
東 義―弘前東 (12・30)

【弘前はるか夢】

弘学聖愛―青森商 (10・00)  
八学光星―青森山田 (12・30)